Interview

新和建設だより
～新和のわ～

vol. 8

2026年11月25日発行



土木 **澤村（さわむら） 泰隆（やすたか）**

過酷な環境での施工や大規模現場を数多く経験し、60歳で新和建設株式会社に入社した澤村泰隆さん。これまでの歩みを振り返りながら、温かい社風の中で挑む新たな現場への思いを聞きました。

これまでにやりがいを感じた仕事や、強く印象に残っている現場についてお聞かせください。

30年以上前、日本道路公団時代の高速道路の土台をつくる工事に携わりました。旭川市内の約3kmにわたる区間において、土工から路盤、舗装、さらにはガードレールやU字側溝の設置、白線引きといった付帯工事まで、すべての施工管理を担当。約1年半に及ぶ大規模なプロジェクトでした。特に印象深いのは、夏の猛暑の中で行った舗装工事です。アスファルトの舗装材料である合材は150℃以上にもなり、現場は過酷を極めていました。そのような状況下で、施工管理として仲間の熱中症防止に気を配るのが私の重要な役割だったのです。水分補給の準備はもちろん、1日の作業後にはアイスクリームを買って皆の労をねぎらいました。他の工区では暑さで大半の作業員が倒れ、数名しか残れなかった業者もあったほどですが、私の現場では誰1人として倒れさせることなく乗り切りました。すべての工程ができあがり、無事に完成を迎えたときの深い達成感は今でも心に残っています。

難しい現場を乗り越える中で、仕事の面白さを感じたエピソードはありますか。

札幌市で担当した高層マンションの外構工事での経験が挙げられます。約2か月という短期間で完了させなければならず、非常にタイトなスケジュールでした。また、現場には設備業者や電気業者など10社ほどに及ぶ関係者が入り乱れ、常に混雑している状態。その中で、工事をスムーズに進めるための采配を任されました。各業者に対して、ときには難しいお願いをしつつも、双方の妥協点を探りながら割り振りを整えていきました。複雑な状況を整理し、1つの目標に向かって多様な人を動かしていくマネジメントの醍醐味を感じた瞬間です。

ご自分の仕事で最も大切にしている、現場でのこだわりを教えてください。

些細なことかもしれませんが、すべてをきっちりと納めることを何より大切にしています。工期や予算を守るのはもちろん、無事故で完了させ、トラブルも含めてきれいに工事を納めるのが私の流儀です。そのためには、徹底した先読みの姿勢が欠かせません。現場で予期せぬ事態が発生した際、役所に判断を仰ぎ回答を待っていては、工事が1週間から10日ほど止まってしまうことがあります。だからこそ、「こうしたいのですが」と先手で提案して合意形成を図り、現場を止めることなく納める措置をとる必要があるのです。1人で管理することも多かったため、確実にやり切る工夫が自然と身につきました。

新和建設に入社した決め手と、今後の目標についてお聞かせください。

60歳を迎え、これまでの経験を活かした管理業務を中心に働ける場所を探していました。ご縁があって、初めは派遣社員として新和建設で5か月ほど働かせていただいたのですが、そこで感じた社員の方々の人柄の良さが一番の決め手です。少々強面の私にも温かく声をかけてくださり、歓迎してくれる社風に惹かれました。今後の目標としては、健康第一で無理をせず、着実に仕事を進めていくことです。元気な老後を迎えるための基盤づくりでもあります。新しい場所でこれまでの経験を存分に活かし、私自身の人生もきれいに納めるような働き方ができればと考えています。

長年の現場経験で培われた先読みの技術と、無事故で完遂させる徹底した品質管理。新和建設の温かい環境のもと、豊富な知識を持つベテランが新たな現場の円滑な運営を支えています。



▲これまでの経験を活かす

新和建設で頑張り続けるワケ

民間ではなかなか扱うことのできない特殊車両を操作し、日々の道路維持から災害時の支援まで、幅広く対応する花巻さん。長年働き続ける中で感じている、仕事のやりがいや会社の魅力についてお話しいただきました。



道路維持
花巻（はなまき） 亨（とおる）さん

入社の経緯

大型免許が導いた次のステージ

前職ではクレーンのリース会社に15年ほど勤め、建設現場や土木現場でクレーンを操作していました。当社には、私が持っていた大型免許や大型特殊免許の資格を生かし、引き続き機械の操作に携わることができる環境があったため、入社を決めました。

働いて良かったこと

災害支援で得られるやりがい

当社で働いていて特に良かったと感じるのは、災害時に被災地を助けに行けることです。地震や台風などでインフラが使えなくなった際、道路清掃車を出動させたり、断水地域へ飲み水を配ったりした経験があります。先日も、大雨の影響で断水した地域へ、6000Lの水を積んだ給水車で支援に向かいました。こうした社会の役に立っていると実感できる機会は、他ではなかなか経験できない貴重なものだと感じています。



▲機械除草中

辞めずに続けられた理由

働きやすさを生む社長の人柄

これまで、深刻に「会社を辞めたい」と思ったことは一度もないのです。それは、天沼社長のお人柄が大きいと思います。社長は常に「和」を大切にすることを強調されており、従業員に対してむやみに角を立てたり、口うるさく言ったりすることがありません。穏やかな雰囲気や働きやすい環境が整っているからこそ、不満を感じることなく、自然と長く続けられているのだと思います。

自分ならではの武器

専門的な機械の操作スキル

長く続けてこられたからこそ身についた武器は、やはり特殊車両を扱う技術です。道路清掃車をはじめ、冬場の除雪車、さらにタイヤショベルやパワーショベルなど、公共インフラを整備する現場ならではの、専門的な機械を多数操作してきました。これらの技術は、私にとって大きな宝となっています。作業の多くは国道で行うため、一般車両や歩行者などの第三者を最優先にし、回転灯を活用するなど安全対策には常に気を配っています。これからも「始業前点検」をはじめとする基本を怠らず、社会の役に立てるよう努める所存です。

室蘭 好きなとこ自慢！

この街に息づく、まだ見ぬ魅力に触れてみませんか。澤村さんから、日々の暮らしの中で見つけた心休まる場所や味わい深い名物など、室蘭ならではのお気に入りを語ります。



土木
澤村（さわむら） 泰隆（やすたか）さん

おすすめスポット

絶景と音楽に癒やされる「宮越屋珈琲 Mutekirou（ムテキロウ）」

私のおすすめは、絵鞆町２丁目にある喫茶店です。妻の喫茶店巡りに付き合って訪れたのがきっかけでした。店内には大きなスピーカーがあり、こだわりのジャズが流れています。また、窓の外には内浦湾が広がり、夕焼けの景色も抜群。素晴らしい雰囲気の中、静かに海を眺めながらコーヒーを飲んで一息つけるところが気に入っています。まだ数回しか訪れていませんが、機会があれば何度でも足を運びたい場所です。



室蘭のグルメ

あえて塩で味わいたい！ご当地グルメ「室蘭やきとり」

室蘭のグルメといえば、やはりB級グルメとして有名な「室蘭やきとり」。やきとりと言っても、鶏肉ではなく豚の精肉と玉ねぎを使っているのが特徴。北海道では豚の精肉を使った串焼きは広く知られており、室蘭でも名物として親しまれています。一般的にはタレにからしをつけて食べるのが定番ですが、私は塩が好みです。



自慢したい特産品

鉄の街ならではのボルト人形「ボルタ」

室蘭に来たばかりの私にとって、特に面白いと感じるのがボルト人形の「ボルタ」です。ボルトやナットを使って人間の形を作った人形で、お土産屋さんに行くと必ず置いてあります。手頃な価格でありながらデザインもおしゃれで、この人形を考案した人のアイデアに感心しました。室蘭を訪れる方には、ぜひおすすめしたいと思います。